（第二種郵便物認可）（大正八年三月七日）

十九日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十五
編輯兼發行人　岡田弘氏
福島縣石城郡平町紺屋町十五
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金八錢　一ヶ月金拾錢
廣告料一行十五字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

第六回縣下健康保險
加入者競技大會
來月七日磐中校庭で擧行
競技種目決定す

縣健康保險協會主催第六回縣下被保險者陸上競技大會は既報の如く來十月七日午前八時から平町磐城中學校競技場に於いて開催する事に決定したが既に二十余組合三百余名の參加申込あり福高、若松、郡山その他縣内各地の加入組合から續々出場の申込ある筈で盛會を豫想されてゐる

尙當日大會の競技種目は

△男子トラック
百米、二百米、四百米、八百米、千五百米、八百米リレー

△男子フキールド
走巾跳、走高跳、砲丸投、三段跳

△一般競技
文字合競走、數學競爭、提灯競走　保險料納入競爭、二人三脚、一人一脚、借物競爭、封筒競爭

△女子トラック
五十米、百米、二百米、四百米リレー

△女子フキールド
走巾跳、スポンデボール投

△一般競爭
文字合競爭、數字競爭、提灯競爭、盲案内競爭、借物競爭

△合同体操　以上

尙出場選手は一人二種目以内但しリレー綱引等團体競技は此の制限を受けない。

平町で協賛會設立
各地參加團体を歡迎
青沼町長發起で計劃

（別項）縣下健康保險被保險者陸上競技大會は來月七日平町磐中校庭で擧行と決定したが、當日は縣下各地から多數の選手參加する爲め空前の盛會を呈すものと豫想されてゐるので平町當局では該大會協賛會を組織すべく青沼町長は今十九日横山署長と種々の打合せを行つたが、此れに先立ち縣健康保險署から牧寄屬外二名來平青沼町長を通じて平町の健康保險加入工場その他關係方面に大會參加を勸誘中であり、平町では此等各方面との接觸後大會協賛會を設立する事と決定設立準備に着手した。

所得委員
名簿閲覽
明二十日開始

所得調査委員改選も愈々二旬後に迫り自薦他薦の候補者間には早くも猛烈な潛航的運動が開始されてゐるが、平税務署では既に名簿の作製成り各町村に名簿の配布を終つたので各町村では明二十日午前八時から一般の名簿閲覧を開始する。

池田東鐵局長
平驛視察

東京鐵道局長池田勝三郎氏は今十九日午前九時三十分平驛着列車で來平後藤驛長の案内で驛、平機關庫、檢車所、保線區等を巡視の上綴驛に新設された檢炭所巡視歸京した。

總工費十三萬圓で
大防波堤を築堤
巨浪襲來の災厄から
救はれる久之濱町

巨浪襲來で民家三十余戸潰壞防波堤全部倒壞した久之濱町ではその後應急修理に努めてゐるが同町の被害最激甚の南町、東町一帶は永久的堅牢な防波堤を築かない限り巨浪激浪襲來の都度災厄から逸れる事が不可能で縣當局に此の完全防波堤築堤の促進陳情を續けた結果愈々總工費十三萬餘圓を投じ應急災害復舊工事として同町南町、東町一帶の海岸線に高さ七米延長實に六百四十米の大防波堤を築堤と決定工事は平町堀江工業が請負ひ既に工事設計も完了したので近日中に着工明春三月の年度末までには完成の豫定で工事を急ぐ事になつた。

▲江田林野組合長

小川村大字上小川江田林野組合では此の程總會を開き役員改選の結果草野一夫氏絶對多數で當選した。

就職兒童座談會
一週間の實習で……
覗いた實社界は？

此の程平職業紹介所では八月の夏期休暇を利用明春卒業の就職兒童のうち希望者をもつて平町市内各商店に一週間住込ましめて實際の体驗を修得させたが、さて一週間の体驗が兒童にどうひびいたか……について兒童の体驗談を聞くことになり好間校で兒童を中心に受持訓導の外平職紹の四家所長、神長倉書記臨席の上催した。

体驗兒童は異口同音に商賣といふものは何によらず今まで考へてゐたことより一層むづかしいものであつて、又その反面は非常に面白いものだ。更に各自の異なつた体驗より見たところの大不平、小不平或は感心した話を聞くと

△大不平の方では：學校或は家庭において早く寢、早く起き身體の壯健を期せと常に口にされてゐるがイザ實社會に入ると夜は遲く、朝は早い。これ等は早寢の習慣のある兒童にとつては堪へ難い一つの苦痛であつた、又某商店では不淨の場所の掃除が小僧の朝の仕事であつたが自分の家庭では不淨の場所は一切姉なり妹なり或は母親なりといふ女のなすべき仕事であつた。これ等も男の子として行ふべき仕事と考へなかつただけに苦痛であつた。

△小不平の方では：年の大きな店員が實習第一日目早々から經驗のある先輩小店員同樣に仕事をいびつけるが、これ等は決して能率を上げる方法ではない、さらに某食料店へ行つた實習生は大人が眞ッ蒼になるまで料亭へ上つて飲酒してるのを見て料理屋相手の商賣が俄かに嫌ひになつた等或る意味においては大人に對しても相當感動をあたへた体驗を物語つたものあり。

△一方感心した方では：地理の判らない小僧といふので主人自らが商品配達の場合地理を詳く書いくれた事、或は主人自ら陣頭に立つて働くため番頭、小僧までがまめ〳〵しく立働きその晩になつて主人から論功行賞があつた等々。

子供心に影じた色々の事を何んの飾り氣もなく率直に發表して居並ぶ人々の注意を喚起したが豫想外の好成績を納めた同座談會は兒童しゆ職斡旋上大いに參考資料となつたので同所としては各連絡學校に對しても座談會開催を希望する方針である。

縣社問題愈々紛糾
山部神官の聲明書發表で
氏子兒童の父兄連激昂
總代人會で對策協議

（既報）平町の總鎮座守縣社子鍬倉神社々司山部神官が平第一、第二、兩校小學校に對し通學兒童の境内通行、寫生等に立入を禁止した事から俄然全町民間に問題となり山部神官に對する非難の烽火各所にあがり殊に境内の通行を禁止された兒童の父兄間にその排擊さへも叫ばれるに至つたが、此れに對し山部神官は「氏子民に急告」と題する長文の聲明書を發表然もその聲明中に二、三兒童の惡戯を數へ上げて通學兒童の父兄に挑戰の形を執つたので問題は愈々紛糾遂には例大祭等に於ける同社の小學生團体參拜を拒否せんとする運動さへも計劃する父兄が現はれ容易ならざる形勢に陷つたので同社では今十九日突如氏子總代人會を召集問題の善處策を協議中であるが、該問題の勃發により來年度同社大祭の御神輿渡御奉仕並に狗丈奉獻等にもその反響が現はれるものと觀られ成行を注目されてゐる。

第二校で
秋季運動會
來月三日に

平町第二小學校では來る十月三日恒例の秋季運動會を同校庭で開催する。

秋刀魚の大群發見
明日の解禁を前にして
磐城丸から大吉報入電
各港漁船勇躍出動

石城各濱秋職最大書入れ秋刀魚ふて南下しつゝある旨小名濱水産試驗場に入電あり指導船からの通報を待ちあぐんでゐた各濱の漁船は解禁を直前に控えて此の一大吉報に躍り上つて喜び直ちに前記漁場に向つて勇躍出動解禁の二十日零時を待つて大活動を開始する事になり久しい不漁續きで火の消えた樣だつた各濱も秋刀魚大群發見に活氣付く。

岩手、宮城縣冲方面に出動中の縣指導船磐城丸は突如昨十八日金華山冲約二百浬の海區に於い

石城郡の事業界

代表的會社と商店その他

附……その經營に活躍する人々

二

入山採炭株式會社

本邦實業界の代表大倉組が經營

內容堅實社運益々隆昌

年産額四十萬噸の入山採炭株式會社の鑛區は九百五十萬坪、試堀鑛區一千餘萬坪、石城郡湯本內郷、磐崎、鹿島、飯野及び双葉郡廣野村の一町五ヶ村に亘り現在の採堀坑として第四坑、第五坑、第六坑、川平坑及び廣野坑を有するが、川平、廣野の兩坑は目下採堀を休んでゐる。

炭質は常磐炭礦中隨一の優良炭と言はれ汽罐燃料及び各種工業用の外廣く家庭用として鐵道省本線、常磐水戸、高崎、兩毛、信越、磐越、奥羽、陸羽、中央總武、東海の製糸、紡績、製織セメント、釀造等に需要殺到の現狀で最近では同社の粉炭が煉炭の原料として歡迎されるに至つたのはその石炭が熱効率で煤煙灰分少なく而も價格が比較的廉價のためで將來益々有望視されてゐる。

會社の誠意に感激する全山從業員

勞資協調の美しさ

入山炭礦の從業員は職員百三十名、坑夫一千八百餘名で殆んど全部を社宅に收容し之等の福利を計る施設として大正十五年立國勞働自治會を設け全從業員の思想善導、保健衛生、災害豫防、慰安に關する事業を行ひ毎月機關紙「自治會報」を無料で從業員に配布してゐる。同坑從業員の衛生思想普及は全國炭礦中最も好成績を示し健康保險組合被保險者の保險料は一日僅か一錢八厘に過ぎない事は特筆に値する。附屬入山病院は數年前の理想的建築で醫師九名を常置してゐる。更に從業員の思想善導健康增進のため男女青年團、主婦會等を組織し講演會、映畫會、讀書會を開き入山在酌軍人會を設け隨時野外演習等を行つてゐる外武道、音樂、園藝、撞球、卓球、謠曲等各種の部門を設け慰安と調の美はしさが他から羨やまれてゐる程である。

入山炭礦の襟度に救はれた湯本町

湯本救濟金三十萬圓　水道も會社の賜物

入山炭礦の存在によつて平町を中心とした石城郡民が無限の恩澤に浴してゐる事は余りに周知の事實であるが、入山炭礦が營利會社であり乍ら創立以來今日まで如何に道義を重んじ溫情を以て來たかは對湯本町の諸問題を見る時明瞭となり同會社の重役、坑務所の所長、以下幹部に自ら敬意を表せざるを得ない。溫泉地湯本町の湧湯が石城郡各所の採炭事業の發達と共に減滅するや、最も湯本町に近接してゐる入山炭礦ではその責任を感じ湯本町救濟を目的として湯本區に毎年多額の金を贈り今日まで總額三十萬圓の巨額に達するが、之は溫情味に富む入山炭礦なるが故になし得た行爲で湯本全町民は滿腔の謝意を炭礦に表してゐるが、更に同町では湯本町水道の完成で會社の湯本町に對する誠意に對し一層感激してゐる。湯本町では大正十四年以來水道調査委員を設け水道布設の準備に着手してゐたが之を知つた入山炭礦では自家用水道布設のため苦心して取得してゐた好間川大瀧江筋からの水利權を無償で湯本町に讓渡したので湯本町では暗夜に光明を發見した如く喜び直ちに準備をすゝめ入山炭礦吉田現所長が犧牲となつて全工事を請負ひ萬難を排して工事を完成し湯本町民をして井水涸渴の苦境から免れしめたもので、之れ入山炭礦の賜でなくて何であらう。

入山炭礦の至寶

坑務所長　吉田宗雄氏

入山炭礦坑務所長として數千の從業員を統轄してゐる吉田宗雄氏は熊本縣天草郡上村の名望家に生れ本年四十六歳、大正七年東大法科出身の法學士、卒業と同時に入山炭礦に入り倉庫係長庶務係長時代に於て氏の明敏な頭腦と該博な智識とを以てして獨身の施設計劃は悉く時宜を得遂にその手腕を認められて大正十三年事務部長として事實上所長代理の地位に拔擢された。爾來會社のため粉骨碎身動き通しで入山炭礦が今日の隆昌を見るに至つたのは大倉組の勢力にもよる事であらうが、第一線に吉田所長の如き好適な所長を有してゐたゝめである事も見逃し得ない所であらう。事務部長就任後梅浦重役秘書として露都モスコーに至り序に歐洲諸國を遍歷し各方面の實業界を視察研究して歸朝したが、偶々勞働爭議が勃發したので氏は機略縱橫容易に之を解決した手腕は全く炭礦界至寶の人物たるを思はせる氏はその風貌の如く性溫和、趣味として菊を愛し湯本千秋會特選級の格である。

技術方面の第一人者

副所長　大貫經次氏

吉田所長の女房役として共に入山炭礦のため活躍してゐる人に副所長大貫經次氏がある。大貫氏は大正十年東大工科採鑛科出身の工學士、性剛快即はち所謂快男子であるが　而も緻密な頭腦の持主で研究心に富んでゐるからその專門的技倆は炭礦界に於て他に隨從を許さざるものがある。全く事務外交方面に優れた吉田所長と共に入山炭礦至寶の人物であらう。大正十年大學卒業と同時に技師として入山炭礦に入り十二年坑內係長に榮進十四年技術管理者昭和二年技術部長等を歷任し副所長に拔擢された人で常に第一線に在つて部下を愛し、その指導誘掖に努めてゐるので全山從業員は慈父の如き親しみを感じてゐる。栃木縣上都賀郡南摩村の生れ本年卅九歳更に前途を囑目されてゐる氏は東大出の法學士、大正六年入山炭礦に入り本社に勤務してゐたが五年前現在の職に轉じ今日に及んでゐる。本社時代から勞務方面の研究者で往年は常磐炭礦界の赤化を企てた全協系分子檢擧の端緒を見出した人として縣刑事協會から表彰された事があり、常磐炭礦界に於いて同方面の權威者である。

若松庶務係長は大正六年早大商科出身地元湯本町生れで倉庫係長、調度係長等を經て現在に至つた人で、勤勉實直溫厚な君子である。

庶務に席をおく比佐源造氏は明治四十年入山炭礦に入つた人だから二十八年勤續の所謂入山炭礦の生字引と言はれる人。明朗な性格の持主で外交方面ではなくてならぬ人である。

人事部長小山田滋氏

生字引の比佐源造氏

入山炭礦人事係長として勞務方面の事務を執つてゐる小山田滋

秋の帽子
○明朗……そして秋氣滿喫の青年帽・紳士帽！
中折。ハンチング……斷然。逸品です。中野の流行型！
ぜひ御高覽。御批評下さいませ……。
平二三五　電五三　中野洋品店

平南町　川井科內診療所　電二四三番

和田耳鼻咽喉專門醫院

店主が店員を連れて行かれる
正シキ食堂
正シキ喫茶
正シキ酒場
平・田町　レストラン サロン　電三五二